

研究所だより

第394号
2018年12月10日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

“おおさむ こさむ 山から小僧が泣いてきた
なんといって泣いてきた 寒いといって 泣いてきた
おおさむ こさむ おおさむ こさむ”

『 おおさむこさむ (大寒小寒) 』 日本の童謡・唱歌



～初冬・大寒（おおさむ）小寒（こさむ）～

暦の上では7日は大雪。「寒さが一段と厳しくなり、雪も多くなる」という意味。本格的な冬の到来を感じさせる季節になりました。

＝ 発達障害と愛着障害 — 学校教育から ＝ (月刊 指導と評価12月号から)

著者：月森 久江 氏 (東京都杉並区立済美教育センター指導教授)

● 30数年前、教育現場で問題になっていた子どもたち

30年前頃、学校現場で問題になっていたのは、各学校に一人いるかいないかの不登校生徒についての解釈と支援方法だった。なぜ登校できないのかわからず、強引に学校に連れてくる親や教員がいたり、さぼってテレビや漫画を見ていたら学校など来たくなくなるという「怠慢説」があった。また、どの中学校でも荒れて暴れる子どもたちがいて、授業をさぼって外へ出る、喫煙、物品の破壊、服装の乱れ、規律違反、地元の先輩とつるんで暴走行為を繰り返すなどの行動の粗さだった。それでも、そのような子どもたちと向かい合うと、案外素直な面を見せたり、あどけない笑顔があった。発達障害をもった子どもたちもいたかもしれないが、ちょっと変わった子といった程度の受けとめで、卒業後も自分の特技や長所を生かして就労していた。

● 現在の教育現場での子どもたちの様子

最近の子どもたちの様子は、過去のような手がかかる、いわゆる「やんちゃ」という子どもは少なく、別の意味で手がかかる子どもが増えている。例えば、何がどうしてこのような行動をとるのかサッパリわからない、何が嫌で教室から出るのか、良いときと悪いときの気持ちの波が定まらず何がしたいのか見当がつかない、差し伸べた手が届いたかと思うと、するっと冷ややかな目で離れてしまう。わがままからの行動なのか、本人が何か悩みを抱えていることで起きる行動なのか、教師にはなかなか見極められない。そのような子どもたちの中に「愛着に問題をもつ子どもたち」が潜んでいることも事実である。教師はその対応や支援をどうしてよいのか悩むのである。

● 発達障害と愛着障害

平成19年からスタートした「特別支援教育」の実施から約10年がたち、学校現場では「発達障害」という言葉を知らない教師がいなくなった。子どもたちへの観察やそのつまづきへの対応を図ろうと校内委員会(支援委員会)が開かれ、その対応が協議されている。しかし、子どもの状態像は複雑になり背景がつかみづらく発達障害があるのか、学習の習得の遅れからくる学習不振か、家庭環境や養育からくる問題行動なのか、



教師は見分けがつかない。子どもの行動面だけが突出して見えてしまい、その複雑な背景に迫ることがむずかしいのである。

ただ言えることは、発達障害は生まれもった脳の機能障害だが、愛着の問題は幼児期の環境や家庭での養育の中で起きる後天的なものである。同じような落ち着かない行動に見えても、よく観察すると発達障害の傾向のある子は、表情はあっけらかんとして立ち上がり自分の好きなことをして、また悪気もなく元にもどってくる。しかし、愛着に問題のある子どもの中には、教師に甘えるような態度をとる一方、突然反抗的な態度をとるなどの不可解な行動になったり、わざと教師を怒らせるような注目行動をとったりする。また、探るような目つきの中に発達障害の子どもには少ない眼の光を見ることがある。このような態度は、教師をいらだたせ心理的に受け入れがたい子どもという印象を与えてしまうのである。

● 養護施設に入っている子どもたち

厚生労働省の2012年度「児童養護施設入所児童調査」によると、全国の養護施設で育つ子どもは約48,000人と言われている。先進国の中で、これだけの子どもたちが養護施設で育っているのは日本だけである。その中で、虐待を受けて養護施設に入っている子どもたちは、愛着の問題を合わせ持っていると考えても過言ではないだろう。

● 子どもの貧困と不適切な養育

2013年の全国児童相談所所長会「児童虐待相談ケース分類等に関する調査研究データ」によると、ネグレクトにおける経済的困難は高い比率で見られる。貧困の家庭状況の中「経済的困難」「ひとり親家庭」「虐待者の心理的状態」などの背景が複雑に重なりあって、虐待事例になっていることがデータから読み取れる。考えられることは、このような貧困などの不適切な養育によって愛着の問題をもつ子どもがいることも重要な点である。いまやネグレクトはどここの家庭でも起こりうる問題であると同時に、発見しにくく見過ごされがちになることも事実である。これらが子どもの心を傷つけ脳にもダメージを与えてしまうことを理解しなければならない。

● 教育の中でやれること

このような様々な環境要因から、親との愛着を形成できずに悩む子どもたちがいることは自明の理である。では、教育の中でどのように対応していったらよいのだろうか。教育は医療とは違うものなので教師は治療者にはなれないが、教育は人と人との関係を築くための大切な環境である。問題を抱える子どもたちを教育が支えるということは、子どもの背景や実態を理解しようとする試みが必然で、前向きに改善に取り組むための環境を整備することである。それには、過去からどこの学校でも行われてきた教育的配慮として取り組むことができる。「私は、あなたの敵ではなく脅かす者ではない」「あなたを尊重して一緒に歩もうとしている」ということを複数の教員で共通理解し、子どもにも明確に表現しながら示していく。より良い方向性を学校内外にリソース(資源)を最大限に活用してスクールカウンセラーや福祉の専門家と協議し、ときには医療やソーシャルワーカー・家庭支援センターと連携しながら模索することができる。医学的には治療が困難と言われる愛着に問題をもっている子どもたちへ、子どもをこよなく愛するために教職に就いた教師たちは、「親にはなれないけど、愛情だけは注ぎたい」と思っている。愛着の問題を抱えた子どもたちへだれもがシャワーのように「温かいまなざし」を降り注ぐことはできるのである。さいごに、子どもたちの健全なこころの成長は、決して子どもを持つ家庭だけの問題ではなく、いまや社会全体で取り組む重要な課題であると考えられる。



<土佐清水市教育研究集会・半日教研特集>

11月7日(水)に各部会研究授業を主体とした半日教研が開催されました。それぞれの部会で研究授業や日々の実践等について活発な研究協議や情報交換ができたものと思われます。

部会(国語・理科・図工・人権教育・外国語・養護)の公開授業・研究協議等について報告します。

【国語】

○内容

授業研究…提案授業について

授業者より:図表と本文の関係性について気づかせる授業を行った。ねらいに迫りきれなかった点もあったが、班の中での気づきは持っていたし、次時の内容吟味につながる意見があった。

参観者より:めあてとまとめの整合性がなかったのではないかな。めあてに、「～図表の効果について考えよう」が入れば、良かったのではないかな。



○実践交流

小学校では「単元を貫く言語活動」ということで、読み取りでつけた力をアウトプットさせる活動がセットされて単元が構成されている。また、複式学級では子どもたちが授業を進めるための進行表やグループ学習の型なども身につけているので、生徒に学習の流れを提示して教師と共有していけば、もっと主体的な授業ができるのではないかな、という方向で交流がまとまった。

【理科】

○内容

1) 公開授業(1年3組)状態変化と温度(物質の状態変化)
赤ワインをエタノールと水に分ける方法を計画する。

2) 授業後の反省会

3) ジオパーク副読本について

○実践交流

1) 授業について

・生徒の多様な意見が出すぎて収拾がつかないのは、課題設定が広すぎたのでは。

・課題設定をエタノールと水に分けるのではなく、エタノールを取り出す方法を考えるとした方が分かりやすい。

・冷凍して水とエタノール分けると考えた生徒のフォローのため、実験をしてはどうか。

・エタノールを取り出して火をつけようという課題設定の方が考える方向が定まるのではないかな。

○情報交換

1) ジオパーク副読本について

・内容を精査して改定する方向で動いている。

・フィールドワーク用のバスは学校教育課が用意してくれるので、各校で対応をすること。

・地層のでき方などのモデル(宗呂川)を作っているのだから、子どもたちに見せたい。

・日本列島形成時に起きた地質現象が竜串で見られることをどうアピールするか。

・海岸段丘などの映像教材を作してほしい。



【図工】

○内容

研究授業:三崎小学校1年生「ごちそうをつくってパーティーをしよう」

○本題材のねらいに迫るための授業の工夫が見られた。(事前にワークシートを使って、家族や友だちの好きなものを聞いて書かせていたことが、制作のイメージを膨らませることにつながっていた。また、粘土の扱いに慣れさせるために試作をさせていたことが、本時の子どもたちの制作意欲につながっていた。)

○子どもたちは、時間が来てもすぐに止めないほど夢中になって制作しており、本時の評価規準である「粘土でごちそうを作ることを楽しもうとしている。」と「粘土を伸ばしたり、丸めたりと自分のイメージに合う形に工夫し表現している。」を十分満たす授業となっていた。

○制作前に、本時の授業で工夫することとして、「かたち」「いろ」「もりつけ」の3点を確認したこともよかった。子どもたちなりに考えながら工夫して作っている様子がうかがえた。特に、「いろ」は、みんながこだわりを持ち、粘土を混ぜてできる新しい色づくりを楽しんでおり、混色の学習にもつながっていた。

○最後に、みんなの作品を鑑賞し合い、「友だちの良かったこと」「自分が工夫したこと」を発表させたことで、次の制作意欲につながる良い振り返りができていた。

○粘土制作は、立体表現なので絵画とは違う感覚や創造力を働かせることができる。また手を使って粘土に触れることで精神的な安定も図れる。粘土制作は小学高学年、中学生でも取り組んでいきたい題材である。

○実践交流

・小学1年:「運動会」「虫取り」「芋ほり」等の絵画(クレパス、背景は水彩)

・小学3年:「リコーダーを吹く友だち」「一輪車乗り」等の絵画(水彩)
「牛乳パックを使った小物入れ」(制作過程と完成作品の写真)

・中学1年:「上履きスケッチ」「友だち」の絵画(水彩)「斜投影図法を使った表現」(ポスターカード)

・中学2年:「抽象画」(ペン・鉛筆・色鉛筆等)「透視図法を使った表現」(ポスターカード・鉛筆等)

・中学3年:「自画像」(画材自由)「抽象彫刻」(粘土)のワークシート

以上の作品・資料を持ち寄り、交流を行った。

○情報交換

・発達段階に応じた絵画の題材について

・クレパスや水彩絵の具の表現方法について等



【人権教育】

振り返り

4年生の学級を使って、日常よくあるもめ事を解決するための、よりよい方法を考えるアサーショントレーニングを取り入れた提案授業。現在の学級の実態を踏まえ、好ましい学習集団を形成するための取り組みであることは分かったが、例題を実際に学級であったことなど、もっと子どもたちの考えやすいものにすればよかったのではないかな。

日頃から自分の考えを素直に出していけるように、また、お互いの意見を認め合えるような学級づくりを、担任を中心にして日々の取り組みの中から積み上げていく。

来年度に向けて

・一日教研の講師は、人権教育課:三木守チーフにお願いする方向で進める。

・半日教研はメンバーが変わったとしても、提案授業中心での内容とする。



【外国語】

○内容

清水小学校6年2組で竹葉先生による研究授業が行われた。授業の雰囲気が高く、生徒が積極的に英語を話している様子から、日頃から竹葉先生や担任の先生が言語活動の工夫をされているのが伺えた。また、竹葉先生が授業の中で中間評価やジェスチャーを交えて生徒に指示英語を入れていたことや校内の先生紹介について生徒の興味・関心を引き出せていた。

研究協議や情報交換の中で、松本指導主事から紹介して頂いたスモールトークの具体例から単元ゴールの設定において、小学校のみならず中学校でも授業実践に繋がりたいと感じた。



○実践交流

- ・言語活動スモールトークの具体例「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文科省）使用」
- ・小学校における複式学級での外国語活動の実態
- ・単元ゴールの設定
- ・小学校における学習指導案の書き方
- ・教科書「We Can」を使用し、新学習指導要領が目指す授業づくりの確認

○情報交換

- ・各小学校で行われている外国語活動において、授業実践の紹介を行った。
- ・スモールトークの具体例を参考に、小学校外国語活動や中学校の英語の授業などで使うことのできる活動について確認した。

【養護】

○内容

◎4年1組 食育授業「1日を元気にすごすための朝ごはん」

1. 授業反省、研究協議

成果、課題、改善点等協議（協議内容は写真で）➡



2. 情報交換・その他

◎がん教育 1月31日（木）13:50～ 5・6校時

・市養護部会 12月6日に変更

※12月の会は成果・課題

・2月26日市養護部会変更 → 3月5日（火） 15:00～

☆書籍の紹介☆

- 「特別の教科 道徳」の評価
通知表所見の書き方&文例集（小学校低・中・高学年）（日本標準）
- キーワードでひく小学校通知表所見辞典「道徳の評価追補版」（さくら社）
- 「ゲンバクとよばれた少年」 著者 中村由一（講談社）
- リーダーズ・ライブラリ Vol.8
「シリーズ・授業を変える3 子供の学びをみとる評価」（ぎょうせい）

お知らせ

二委託事業（教研各部会・研究協力校・各校等）の提出物期限について

○各部会

部会決算書	12月25日（火）
事業実績報告書	1月28日（月）
総括教研部会報告書	1月28日（月）
研究集録原稿	1月28日（月）

○研究協力校等

研究集録原稿	1月28日（月）
決算書・実績報告書	2月25日（火）

○各校（校内研究）

研究集録原稿	1月28日（月）
--------	----------

※部会決算書について（5/14市教研各部長・各研究会代表者会で説明済み）

12月末で会計整理をして、残った予算については事務局に返金をお願いします。

